

聖書日課 『からし種』 2023.1.1-1.8

<p>1月1日 (日)</p> <p>申命記 8章</p>	<p>「あなたが食べて満足し、立派な家を建てて住み、…財産が豊かになって、心おごり、あなたの神、主を忘れることのないようにしなさい」(12-14節)。新しい年を主の御手からいただき、歩み始める。自分の手の中にあると思っているものも、実はすべてが主からのいただきもの。「まず礼拝から始めよう」。この手に託された「恵み」を大切に用いていくために。</p>
<p>2日 (月)</p> <p>申命記 9章</p>	<p>「あなたは、『わたしが正しいので、主はわたしを導いてこの土地を得させてくださった』と思ってはならない」(4節)。「頑張った自分にご褒美をあげたい」というのは、血のにじむ努力を重ねた人が言う言葉。「ちょっと頑張った自分」を大きく誇りがちなわたしには、この申命記の言葉がふさわしい。主の導きなしに何もしえない小さな自分を忘れることがないように。</p>
<p>3日 (火)</p> <p>申命記 10章</p>	<p>「イスラエルよ。今、あなたの神、主があなたに求めておられることは何か」(12節)、「わたし(モーセ)が今日あなたに命じる主の戒めと掟を守って、あなたが幸いを得ることではないか」(13節)。申命記はイスラエルの人々を「幸い」に導く言葉。人の目には「良く」見えて「滅び」に至る道がある。逆に人の舌には「苦く」感じて「幸い」に至る道がある。</p>
<p>4日 (水)</p> <p>申命記 11章</p>	<p>「主のなさった大いなる御業をすべて、あなたたちは自分の目で見てきた」(7節)。イスラエルの「荒れ野の四十年」は泣き言や不満にあふれ、自分たちの信仰の貧しさと小ささを思い知らされた年月だった。が、同時に、その自分たちをあきらめずに導き続ける神の真実の愛を知らされた旅でもあった。さて私たちは、自分たちの辿ってきた道に何を見るのか。</p>

メール配信登録メール senfkorn.obc@gmail.com

大井バプテスト教会

メール配信希望の方は名前とアドレスを明記の上、上記のアドレスまで

聖書日課 『からし種』 2023.1.1-1.8

<p>5日 (木)</p> <p>申命記 12章</p>	<p>「あなたたちは、我々が今日、ここでそうしているように、それぞれ自分が正しいと見なすことを決して行ってはならない」(8節)。私たちの「正しさ」は頼りない。私たちに見えているのはごく一部にすぎないし、「自己中心」の都合よい「正しさ」でしかない。自分の「正しさ」は相当に「危うい」ことを知り、神の導き、友の助言を大切に受けていくことができるように。</p>
<p>6日 (金)</p> <p>申命記 13章</p>	<p>「あなたたちの神、主はあなたたちを試し、心を尽くし、魂を尽くして、あなたたちの神、主を愛するかどうかを知ろうとされるからである」(4節)。主なる神は、私たちの心を探る方。「主の灯は…腹の隅々まで探る」(箴言 20:27)。私たちは心を揺さぶられる経験を通して、真に大切なもの、無くてならないものを知る者とされる。今日、主の慈しみを知る者とされて。</p>
<p>7日 (土)</p> <p>申命記 14章</p>	<p>「あなたは、毎年、畑に種を蒔いて得る収穫物の中から、必ず十分の一を取り分けねばならない」(22節)、「常にあなたの神、主を畏れることを学ばねばならない」(23節)。私たちは「主を畏れること」を学ぶ必要がある。私たちの心の中には神を求める思いと同時に神に背を向ける思いが同居している。「第一のものを第一とする学び」を大切にしていきたい。</p>
<p>8日 (日)</p> <p>申命記 15章</p>	<p>「あなたの神、主が与えられる土地で、どこかの町に貧しい同胞が一人でもいるならば…」(7節)。「主が与えられる地」とはどこか、「同胞」とは誰か。わたしたちに神の国を約束して十字架に向かわれる主イエスが最後に語られたたとえを思い出す。「同胞ではないと思ってあなたが見捨てた相手が、このわたしだったのだ！」というマタイ25:44～45が迫ってくる。</p>